

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題） ※参考

- ・学生の受け入れ方針において、入学者選抜の内容や入学生の実態等が記述されており、求める学生像が具体性に欠けるので、明確に設定するよう改善が望まれる。⇒対応済

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

現代福祉学部では、学部として目指すべき方向性を「現代福祉学部の理念」と「現代福祉学部の教育目標」として明文化し、それにもとづいて、改善の方向を明らかにして達成目標に向け努力していると評価できる。

教員像・教員組織については、教員に求める能力・資質等を、学部教授会内規等に明文化しており、大学院担当教員についても、学部同様の規程整備が行われ、大学院教育への順次の連続性と専門性の確保の努力が行われている。採用にあたっては、カリキュラムにふさわしい教員組織を形成するため、年齢層の偏りが解消されつつある。

教育課程・教育内容については、カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成のためのカリキュラム改編が2014年度から行われている、2つの学科を通じて専門性の高い職業人の養成を目標に、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされていると評価できる。

教育方法については、学年ごとの履修ガイダンス、専任教職員による個別の履修相談が行われている。さらに「授業改善アンケート」に加えて学部独自の「カリキュラム改善アンケート」、学生への「モニタリング調査」など学生からのフィードバックや相互授業参観による授業形式の情報交換を通じて新たな授業形態を追究している。これらをさらに有機的に組み合わせ、より発展させることが期待される。

学生の受け入れについては、アドミッション・ポリシーが学科ごとに適切に明示されている。内部質保証については、FD検討委員会、質保証委員会、教授会など様々な会議体で情報共有や検討がおこなわれている。自己点検・評価結果および大学評価委員会の評価結果については、教務委員会、教授会および学部教育に関する中・長期的検討を行う将来構想委員会において、その内容を共有し、対応に関する検討を行っている。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

評価頂いた点について、継続的に達成できるよう努力していきたい。教育方法については、さらなる質の向上を目指し、基礎ゼミの内容や進め方・指導法の検討などを中心に継続的に検討していきたい。また学生からのフィードバックについても様々な形態を模索し、授業改善に反映させたいと考えている。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング（Well-being）＝健康で幸福な暮らしと社会」という概念を実現する学部としての方向性を明文化し、教育方法の質の向上を目指し、専門教育を達成できるような体制を着々と整え、継続的に検討・改善を行っていることは評価に値する。また学生からのフィードバックを授業改善に反映させることは、今後、学生の自主性・自発性を育て、モチベーション向上にも役立つものと考えことから、今後の取り組みとして評価できる。今後の日本社会において必要とされる分野だけに、ウェルビーイングを実現できるスペシャリストを育成する学部として、より充実し魅力的なプログラムの提供が期待される。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・学部内にFD検討委員会ならびに質保証委員会を設置し、定期的な検討を行っている。
FD検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとにFDを検討するとともに、全学的な自己点検・評価活動については質保証委員会で検証を行っている。
- ・質保証委員会の構成は、学部執行部以外の教員から選出している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2016年度は、2月に年度目標の達成状況を点検した。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部内にFD検討委員会ならびに質保証委員会を設置しており、定期的な検討を行っていることから、内部での点検・評価に関する制度的な整備は十分になされると判断できる。また、質保証委員会の構成員は学部執行部以外の教員から選出しており、客観性かつ公正性を確保していると考えられる。2016年度は2月に年度目標の達成状況を点検しており、質保証委員会は適切に活動を維持している。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、以下の方針とする。

<福祉コミュニティ学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（社会福祉学）」を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、社会福祉・地域づくりの学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職や地域住民などと協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

<臨床心理学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（臨床心理学）」を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職と協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、下記のような教育課程を編成する。

<福祉コミュニティ学科>

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、社会福祉・地域づくりに関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、ソーシャルポリシー分野・コミュニティマネジメント分野・ヒューマンサポート分野の3つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割や地域住民の活動を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

<臨床心理学科>

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、臨床心理に関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野、精神保健・福祉分野の4つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
--	--

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
--	--

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。
 ・ <http://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy.html>

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
--	---

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。
 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性および表現について、教務委員会にて毎年検証し、修正内容を教授会にて承認を得ている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
 ・ 特になし

2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
--	---

(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系的に鑑み、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされているとともに、これらの知識・技能を基盤として3～4年次においては実習教育（ソーシャルワーク実習、精神保健ソーシャルワーク実習、スクールソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理実習）を行うことで、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム，演習・実習科目，各学年での履修方法）

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。

S A B

(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

カリキュラムの順次性・体系的性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づきカリキュラムを2014年度から改編している。また履修の手引きにおいて、各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、体系的に学べるよう配慮している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、II.各学年での履修方法）

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化される。

1年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は2年次からの配当としている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、II.カリキュラム）

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

1年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施している。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

基礎演習の指導内容、進め方の向上を目的に、教授会懇談会を2回開催し（2016年11月16日、2017年1月11日）、教授会メンバー全員で意見交換をし、改善点を検討した。

また基礎演習において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目標にグループワークを行い、成果発表の場として合同コンペを行った。

2016年度は担当教員に教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて
- ・教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシブ・イングリッシュ」を開講している。また、学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）を設けている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム、III.研修・海外留学・英語プログラム） 	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。さらに、キャリア教育の一環として、大学における学習と職業選択の関連性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム） 	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導 ・履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえ、専任教職員による個別の履修相談を実施 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料・履修相談会相談用紙） 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） ・2017年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 2.演習・実習科目） ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスにおいて各回の授業内容を明示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス 	
④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位数の上限を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次～4年次：1年間に48単位 <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の上限単位+再・未履修科目を履修する場合、各年次49単位を上限として履修が出来る。 ・教職科目・資格課程科目は履修登録単位数とは別に履修できる。 ・言語コミュニケーション科目インテンシブ・イングリッシュは履修登録単位数に追加して履修できる。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部履修の手引き 	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換） ・ソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招いて報告会を実施した。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 授業相互参観報告書 	
<p>⑥それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習・専門演習・語学については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限しクラス編成を行っている。 ・実習教育において、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部履修の手引き 	
<p>⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会においてシラバスの充実を確認するとともに、兼任・兼任教員を含めすべての教員に講義概要の執筆依頼を配布し、詳細かつ適切な内容記述に関する注意喚起を行っている。 ・2014年度から、教務委員会がすべての講義のシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス点検作業原稿、チェックリスト 	
<p>⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの運用の適切性については、授業改善アンケート等の結果を参考として検証している。 ・基礎演習に関しては、春学期は共通のシラバスとなっているため、開講前に担当教員間で授業内容や方法などについて確認を行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 授業改善アンケート結果 ・『基礎演習』における春学期(前期)共通プログラムについて 	
<p>2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(現代福祉学部)成績評価割合のガイドラインについて 	
<p>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定については、必要に応じてシラバスの内容を確認し、本学部の該当科目との内容の整合性を確認するなどして、適切な認定を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス 	
<p>③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価については、科目間での評価のばらつきは是正や評価の適切性を確保するため、現在、教務委員会を中心として、方策の検討を進めている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(現代福祉学部)成績評価割合のガイドラインについて 	
<p>④学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部に就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 学生の就職・進学状況一覧 	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料 	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関して、入学時と1年終了時にテストを実施し、学習成果を測定している。 ・ソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理学実習において、実習の学習成果を把握するために、実習報告書を作成している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アチーブメントテスト結果 ・2016年度実習報告書 	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧 	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度の学科改組にともない再編成されたカリキュラムに対して、「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会、将来構想委員会等において改善点の検討を行ない、2014年度からの新しいカリキュラム編成に反映している。 ・学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を検証している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 授業改善アンケート結果 ・2016年度 学生へのモニタリング調査結果 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会において情報の共有化を図っている。 ・学生の満足度の高い複数の授業については、大学院教授会と合同開催のWell-being研究会において、担当者による教育方法と授業改善に関する研究報告とディスカッションを行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度 授業改善アンケート結果 ・2016年度 Well-Being研究会の開催案内 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
----	---------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・特になし

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・基礎演習の内容及び指導方法の向上に向けて、検討を行う。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

現代福祉学部では、修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針、および学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針が設定され、ホームページや『履修の手引き』等により、周知・公表されている。また、教育目標や各方針については、教務委員会にて毎年検証が行われ、修正内容は教授会にて承認を得ていることより、検証は適切であるといえる。2学科とも、基礎的な事項を学ぶだけでなく、現場に出て「実学」を学ぶ教育体制をとっていることは評価できる。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

現代福祉学部では、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3分野を基礎とし、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとして、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされ、さらに3～4年次には実習教育を行うことで、実践力が養われている。

現代福祉学部の履修の手引きには各学年での標準的な履修方法を提示し、体系的に学べるように配慮している。また専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置していることは評価できる。

高大接続への配慮としては、1年生を対象とした少人数の基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施しており、基礎演習の指導内容や進め方の向上を目的に教授会懇談会を開催し改善点を検討していることは評価すべき点である。

2016年度からFD推進センター作成の「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用している点も評価できる。

「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択にかかわる広い視野の形成を促し、さらに大学における学習と職業選択の関連性や職業活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的なキャリア教育を提供していることは大きく評価される。

③教育方法に関すること (2.4)

現代福祉学部では年度初めに履修ガイダンスを行い、履修指導を適切に行っているとともに各年次毎の履修登録単位数が設定されている。前述のガイダンスの内容を踏まえ、専任教職員により履修相談会を開催し、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則20名以下の少人数教育を行い、きめ細かな学習指導を行っていることは評価できる。

学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策は講義内容をシラバスに明示することにより行っており、シラバスの運用の適切性については授業改善アンケート等の結果を参考にフィードバックしていることと、教務委員会が全てのシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入していることから適切に検証が行われている。

また、授業相互参観やソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招き報告会を実施するなど、効果的な授業形態の導入に努めていることが伺える。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

現代福祉学部成績評価割合ガイドラインに基づき成績評価・単位認定は適切に行われている。他大学における既修得単位の認定についてもシラバスに基づき整合性を確認し適切に行われている。成績分布・進級などは教授会において情報共有がなされ、学位授与方針に明示した学生の学習成果の把握・評価に関してはアチーブメントテストや実習報告書により行われ、4年間の学習成果としての卒業論文は、教員間で情報共有されている。また、学生への「授業改善アンケート」、学部独自の「カリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行うなど、教育成果を検証し適切に改善がなされるよう工夫されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

<福祉コミュニティ学科>

【入学前に備えているべき能力】

- 1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- 2) 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
- 3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
- 4) 少子高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差拡大、心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
- 5) 積極的に他者と関わり、実践を通した学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- 一般入試（A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試および大学入試センター試験利用入試）
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- 推薦入試（指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試 等）
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
まちづくり実践へのモチベーションの高い学生（まちづくりチャレンジ入試：自治体推薦特別入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツに優れた者の特別推薦入試）
- 特別入試（外国人留学生入試 等）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試）

<臨床心理学科>

【入学前に備えているべき能力】

- 1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- 2) 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
- 3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
- 4) 子どもの発達、対人関係や家族関係の問題や心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
- 5) 積極的に他者と関わり、実践を通した学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- 一般入試（A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試および大学入試センター試験利用入試）
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- 推薦入試（指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試 等）
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツに優れた者の特別推薦入試）
- 特別入試（外国人留学生入試 等）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試）

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

定めていますか。

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

収容定員に基づき、在籍学生数が適正に管理されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率 (2012～2016 年度)

(各年度 5 月 1 日現在)

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	220名	231名	231名	231名	231名	
入学者数	221名	227名	230名	245名	323名	
入学定員充足率	1.00	0.98	1.00	1.06	1.40	1.09
収容定員	880名	891名	902名	913名	924名	
在籍学生数	914名	930名	933名	938名	1,046名	
収容定員充足率	1.04	1.04	1.03	1.03	1.13	1.05

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】 ※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・前年度の学生募集および入学者選抜結果については、教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次検討を行なっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・臨床心理学科の指定校からの入学者を増やすために、指定校の見直しを行う。

【この基準の大学評価】

現代福祉学部の学生の受け入れ方針は、正しく設定されており適切であるが、福祉コミュニティ学科と臨床心理学科で共通した記述が多い。一方、定員の超過・未充足については、2015年度まではとくに問題はなかったが、2016年度に入学定員と収容定員が大幅に超過し、2017年度でも若干の超過が見られることから、2018年度の入学試験に向けて、入学定員を厳守するとともに、収容定員充足率をできるだけ1.00倍に近づけるよう改善が望まれる。学生募集および入学選抜の結果については、教務委員会および教授会に報告がなされ、適切性について逐次検討が行われている。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011年度自己点検・評価報告書より)

本学部の教員は、大学・学部の教育理念の基本的理解を前提として、(後述する)各学科の教育目標並びに学部・学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを実現できる教員であることを求めている。

具体的には、学部教育への入門期(1年生)における基礎演習は、開講数のほとんどを専任教員が担当することとしている。基礎演習を兼任教員にお願いする際でも、本学部教育にかかわりのある教員にお願いすることを基本としている。また専門基礎科目についても、その科目の大半を専任教員が担当することとしている。専門教育が本格化する2・3年生では、専門基幹科目について、その科目の大半を専任教員が担当することとし、専門演習Ⅰ・Ⅱ、実習や実習指導科目は、原則として専任教員が担当することとしている。最後に学部・学科教育のまとめをする4年生では、専門演習Ⅲおよび卒業論文の指導は専任教員が担当することとしている。このように、学部専門教育の基礎や基幹となる科目、学部教育の特徴である実習科目、そして最も学生と身近な存在である基礎演習と専門演習については、そのほとんどを専任教員が担当することを、教員組織の編制方針としている。また実習教育をサポートする教員として実習指導講師(任期付助教)を採用し、よりきめ細かな実習教育を実現することとしている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
- ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
- ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
- ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
- ・規程第975号 現代福祉学部助教に関する規程

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部4名(学部長1名、教授会主任1名、教授会主任・実習委員長1名、教授会副主任1名)
- ・教授会(原則として月に2回)
- ・執行部会議
- ・教務委員会
- ・学部FD検討委員会
- ・質保証委員会
- ・カリキュラム検討委員会

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

2010 年度の学科改組にもとづき、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

大学院を担当する教員についても、学部同様の規定整備を行い、大学院教育への順次的連続性と専門性の確保に努めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

2016 年度専任教員数一覧

(2016 年 5 月 1 日現在)

学部（学科）	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
福祉コミュニティ	16	0	0	3	19	14	7
臨床心理	8	1	0	1	10	10	5
学部計	24	1	0	4	29	24	12

専任教員 1 人あたりの学生数 (2016 年 5 月 1 日現在) : 36.1 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】 (～200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員の年齢構成については採用時の配慮事項としており、年齢層の偏りが改善されつつある。

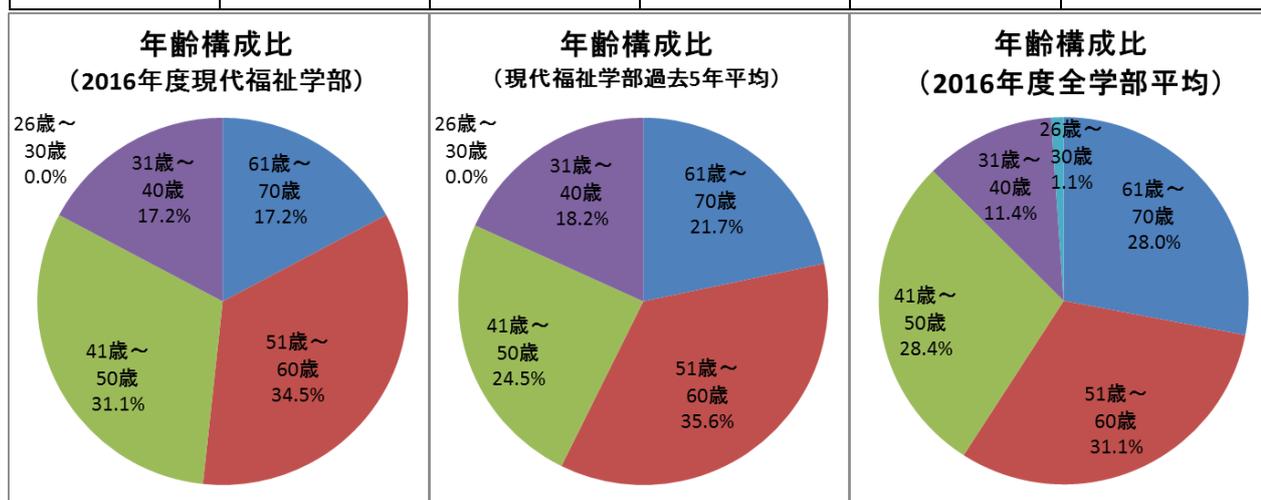
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

年齢構成一覧

(2016 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2016	0 人 0.0%	5 人 17.2%	9 人 31.1%	10 人 34.5%	5 人 17.2%



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則 ・学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則 ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格 ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規 ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程 	
②規程の運用は適切に行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記根拠資料の通り 	
4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を毎年 2～3 回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。 <p>【2016 年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-being 研究会 <ul style="list-style-type: none"> ■第 1 回 2016 年 6 月 25 日（土）、市ヶ谷キャンパス 富士見校舎 833 教室 関谷秀子教授 「発達論からみた思春期の心理的問題へのアプローチ—実証研究の知見から」 宮地さつき助教 「マルトリートメントへの予防的介入～福島県におけるスクールソーシャルワーク実践から」 ■第 2 回 2016 年 11 月 16 日（水）、福祉 301 教室 名川 勝講師（筑波大学人間系障害科学域）「障がい学生の支援について」 ■第 3 回 2017 年 3 月 8 日（水）、現代福祉学部 301 教室 津村麻紀助教 「総合病院のがん治療における心理職の活動モデルに関する研究」 伊藤正子教授 「アスベスト問題からみる日本的 SHG の可能性」 久保田幹子教授 「森田療法の臨床および効果研究」 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD 推進研究会への外部講師派遣依頼 ・2016 年度 Well-Being 研究会開催の案内 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>現代福祉学部では、教員に求める能力・資質等については「学部教授会内規」において明文化されており、適切である。教員の年齢構成については改善も認められ適切である。</p> <p>教員の採用・任免・昇格に関しては、学部教授会内規に基づき、その適切な運用が図られている。</p> <p>FD 活動については、大学院教授会と連携して、Well-being 研究会を実施していることは高く評価できる。</p>

5 学生支援

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・教務委員会および教授会において把握し、適切な対応が行われている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料 ・留級者一覧 ・休学届、退学届	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400 字程度まで） ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィサー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 ・オフィサーを設け、学生に周知し、修学支援を行っている。 ・基礎演習、専門演習を必修とし、担当教員が細やかな修学支援を行っている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度現代福祉学部履修の手引き	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 ・成績不振の学生については、年度当初の学年別のガイダンスとは別に、留級者を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。また、低 GPA 学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認する等、きめ細かな対応を行っている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ガイダンス日程、履修相談会相談用紙 ・低 GPA リスト ・成績不振、長期欠席学生等への対応について	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400 字程度まで） ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 ・入学時のガイダンスにおいて、外国人留学生を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ガイダンス日程	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では、卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況について教務委員会および教授会において把握し、適切な対応を行っている。オフィサーを設け、修学支援を行うとともに成績不振の学生に対してはガイダンスや個別相談も実施するなど、ゼミ担当教員・教務委員を中心にきめ細かな対応を行っている。

外国人留学生の修学支援についてもガイダンスおよび個別相談を実施しており、学生全体への修学サポートは適切に行われている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		基礎演習における指導内容について、検討を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習の指導内容については、教員間の一貫性を保つために共通プログラムを設けているが、その内容や進め方の向上を目的に、教授会懇談会を2回開催し（2016年11月16日、2017年1月11日）、教授会メンバー全員で意見交換をした後、改善点を検討した。 基礎演習において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目標にグループワークを行い、成果発表の場として合同コンペを行った。 2016年度は担当教員に教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配付し、基礎演習での指導に活用した。
	質保証委員会による点検・評価	基礎演習の共通プログラムの整備やFD推進センターの「学習ハンドブック」の活用、さらには基礎演習にかかわる意見交換がなされた点は十分に評価できる。こうした取り組みによって基礎演習間の教育のバラつきがかなりの程度改善され、良い意味での標準化が達成されたからである。複数の基礎演習で試行された基礎演習「合同コンペ」は試みとしては高く評価できる反面、課題も残されている。評価できる理由は合同コンペに参加した学生にモチベーションの向上や達成感が見られたからである。課題として残るのは、今回の合同コンペのやり方をすべての基礎演習に機械的に適応することでモチベーションが向上させられるか否かは教員の個性や専門性の違いなど標準化できない（あるいは標準化することが必ずしも好ましくない）要因も絡むことが予想されるからである。今後はこうした問題を議論しつつ試行錯誤していくことが必要であろう。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		学生の学習時間をより確保するために、シラバスの【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】項目に具体的な記述をするよう各教員に促していく。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学習時間をより確保するために、シラバスの【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】項目に具体的な記述をするよう各教員に促し、教務委員会においてシラバスのチェックを行った。 教員に配付する「出講案内」に授業時間外の学習を促す取組の例を示した。（2017年3月配付）
	質保証委員会による点検・評価	シラバスにかかわる教員への具体的な指導や例示、あるいはシラバスのチェックは十分に評価できる。こうした取り組みによってシラバスの記載が前年度より充実したものとなったからである。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		学生成果の測定のために、優秀な卒業論文の顕彰（報告会等の実施）について検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の顕彰について、教務委員会および教授会で検討したが、評価基準や方法について様々な意見が出たことから、他の測定方法も含め継続的に検討を行っている。 学習成果である卒業論文のテーマ一覧を、卒業生に配布するだけでなく、2017年度からはホームページに公開し、学習意欲の向上を目指すこととした。
	質保証委員会による点検・評価	卒業論文の学習意欲向上にかかわる顕彰制度について達成は不十分であった。専門分野を横断する形で卒論を厳密に比較評価し顕彰することは難しいとしても、分野別に複数の論文を並列的に顕彰することも考えられるからである。今後、卒論の顕彰の在り方については議論が継続され、一定の結論が得られることが望まれる。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		指定校からの入学者が少ないため、指定校の見直しを行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	指定校の数を増やし、結果的に入学者の増加に繋がった。
	質保証委員会による点検・評価	指定校の数を増やしたことは評価できる面と同時に課題も残った。福祉コミュニティ学科はこうした取り組みによって指定校推薦で入学する学生数は増えたものの、臨床心理学科では必ずしも予期したほどの入学者の増加はみられなかった。今後、その原因について探索し、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

対策を講じる必要がある。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

基礎演習の、教員間の一貫性を保つため改善に向けた2回の教授会懇談会を開催し指導内容の検討がなされたこと、また、グループワーク、合同コンペの開催、基礎演習での「学習ハンドブック」の活用などの取り組みは大いに評価される。また、シラバスの「授業時間外での学習」項目への具体的な記述の記入については、教務委員会において各教員のシラバスの確認を行うとともに、この取り組みの例を示したことは、確実な実行を促すための対応として評価できる。また、指定校数を増加させ、この取り組みが入学者の増加に繋がったことも効果が上がった点として、大きく評価される点である。

【大学評価総評】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング（Well-being）＝健康で幸福な暮らしと社会」という概念を実現する学部としての方向性を明文化し、教育方法の質の向上を目指し、専門教育を達成できるよう継続的に検討・改善を行っていることは評価に値する。

内部質保証についてはFD検討委員会、質保証委員会を設置し、定期的に検討を行い目標の達成状況を点検しており、適切に維持されている。

教員組織においては教員の年齢構成の適正化に向けた努力が認められる。学部内では非常勤講師も招き、大学院教授会と連携して、合同開催のWell-being研究会を実施していることは評価できる。

カリキュラムについては「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3分野を基礎とし、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとして、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされ、さらに3～4年次には実習教育を行うことで、実践力を養う。現代福祉学部の履修の手引きには各学年での標準的な履修方法を提示し、体系的に学べるように配慮している。また専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置していることは評価できる。

また1年生を対象とした少人数の基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施することにより高大接続への配慮を行っている点、基礎演習の指導内容や進め方の向上を目的に教授会懇談会を実施し改善点を検討していることは評価すべき点である。2016年度にはFD推進センター作成の「学習ハンドブック」を配布し基礎演習での指導に活用している。

基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則20名以下の少人数教育を行い、きめ細かな学習指導を行っていることは評価できる。授業相互参観やソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招き報告会を実施するなど、効果的な授業形態の導入にも努めていることが伺える。

また、学生への「授業改善アンケート」「学部独自のカリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行い、教育成果を適切に検証した上で、改善されるよう工夫している。

全体的にみて、現代福祉学部の運営は適切になされていると思われる。ウェルビーイングの実現という具体的な目標が明確に掲げられているからであろうが、2学科体制をより有機的に発展させていけるよう、今後の改善に期待したい。日本の現代社会において問題となっている少子高齢化、子供の貧困率の増加、虐待、DVなど多々ある問題を解決するスペシャリストの育成に今後が期待される。

最後に、自己点検・評価シートについては、2015年度大学評価総評にも申し添えられているが、具体的な記述がやや不足しているため、この点については次回の改善が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。